

交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイトに記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	吉田 創	学年(渡航時)	4年
派遣先大学	アテネオ・デ・マニラ大学		
国・地域	フィリピン		
派遣期間	2024年1月～2024年12月		

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
Contemporary Asian Philosophy	現代におけるアジア哲学について学んだ。アジア哲学は、孔子や荀子などの影響を受けており、私が専攻としている西洋哲学の思想とは大きく異なるものだった。具体的には、人や社会、自然とのかかわり方に重点を置いており、西洋哲学に比べてより実践的な内容が多かったように感じる。授業内容は、教授がスライドを用いて彼らの思想について解説する形式だった。ときには、彼らの書籍を用いながら、その内容を生徒に質問されることもあった。
Modern Western Philosophy	西洋哲学について、ルネサンス期における哲学の再興からカントに至るまでの西洋哲学の系譜について学んだ。教授は生徒とのコミュニケーションを多く取る人で、授業は面白かった。事前に書籍を読んでそれに関する小テストを受けさせるなど、生徒が授業についてくることを最優先して、教授が授業をしてくれた。
The Human Condition: The Political dimension	この授業では、ソクラテスからハンナ・アーレントにいたるまで、あらゆる視点から人間の生き方や政治の在り方について学ぶことができた。授業前に事前のリーディング課題が出され、それを読んだことを前提として授業が進められた。評価はグループプレゼンと oral exam によって決められた。
2 学期目	
履修科目	授業内容
Swimming Class	留学中の運動不足を解消するために最適だったと感じる。最初に泳ぐ能力に応じてチームが分けられるので、能力にあった授業を受けることができた。水泳のメリットに関する課題が少しあったが、ほとんどは能力に応じた水泳の課題が出され、それをクリアすれば合格という形で評価された。
Chinese Philosophy	中国の古代哲学について、書籍や映画、アニメを題材として学ぶことができた。他にも古代の占いや気功を通して、実践的に中国思想を学んだ。授業は基本的に、教授が選んだ書籍の内容を順番に生徒が解説していくという形式だった。授業内容に関するレポートを書いて評価された。
Filipino Class	留学生用のフィリピン語のクラスなので、かなり基礎的な内容だった。フィリピン語を話せることだけでなく、フィリピン語の歴史やフィリピンの文化を知ることが目的とされていた。自己紹介や他己紹介、数字の教え方などを学んだので、基本的な会話はできるようになった。評価は、グループプレゼンとスピーキングテストの結果に応じて行われた。
Japanese Management	日本の会社における経営術について学んだ。日本で働いた経験のある教授が授業をされており、彼の過去の経験や論文の内容1を踏まえて授業が展開された。グループワークが多かったので、現地生と協力して課題を進めた。

留学レポート(1,500字以上)

このレポートでは、フィリピンで生活するうえでの基本情報についてまとめようと思います。

まずは、交通面についてです。基本的に、フィリピンでの交通費はかなり安いです。交通手段としては、トライシクル(3輪バイク)、ジブニー(バス)、電車、タクシー、バイクの5つがあります。トライシクルは、バイクの外側に2輪のかごのようなものが付いていて、その中に乗り込みます。大学周りはもちろん、フィリピンの多くの場所で利用できるのですが、国内旅行の際にも便利です。ジブニーは、座席が内側を向いているバスで、かなり窮屈な状態で乗ります。その分値段は安く、かなりの距離を13ペソ(約35円)で移動できます。しかし、目的地がどこなのか分かりにくく、どのタイミングで降りていいかの判断も難しいです。電車はマニラ内のみあります。車内は清潔で涼しいので、マニラ内で長距離移動する際はおすすめです。距離によりますが、値段も日本よりはかなり安いです。タクシーは、Grabというアプリを使って呼ぶことが多いです。アプリを使わないと過剰請求されるので、アプリを使った方が無難だと思います。バイクは、JoyrideやMoveitというアプリを使って呼ぶことができます。ドライバーの後ろに二人乗りすることになるので、少し危険ですが、一人で遠出するときは安いのでお勧めです。私は、数人で移動するときは割り勘できるのでGrab、一人のときはJoyrideを利用していました。

次に、食生活についてです。私は基本的に大学内の食堂か近くのファストフード店で食事することが多かったです。というのも、フィリピンのローカルフードの店で食事すると、食中毒にかかるというケースが頻繁に生じていたからです。ただ、フィリピン料理がおいしくないわけではなく、むしろ日本人の口に合う料理も多くあるので、少し高いですがmesaやmanamというフィリピン料理の店に行つてほしいと思います。特におすすめのフィリピン料理はsisigです。フィリピンのパンパンガ州を代表する伝統料理で、豚肉や玉ねぎ、ニンニク、唐辛子などを炒めた料理です。軟骨のようなコリコリとした食感が特徴で、濃い味付けが人気です。留学中に日本人の友達が何人かフィリピンに遊びに来てsisigを食べてくれて、全員おいしいとっていたので日本人が好きな味だと思います。

最後に、フィリピン人の性格についてです。フィリピン人は基本的にフレンドリーで温厚な性格をしています。なので、留学中に友達ができないことを悩んでいる人はいなさそうでした。授業に行けば話しかけてくれる子がいるので、かなり心強かったです。また、留学生を支援してくれるサークル(アテネオだとASEC)が、活発に活動をしていて、履修登録などの際に分からないことがあればすぐに教えてもらえるので、非常に助けになりました。さらに、留学生同士の交流イベントをホストしてくれるので、そのイベントに参加することでいろんな人と関わって友達になることができました。

今回の留学を通して、個人的にフィリピンは留学に適した国だと感じました。食については、あまり不自由なく暮らすことができ、交通の面でも安価で移動できるという点が良かったと思います。しかし、私がフィリピンをおすすめする1番の理由は、やはり人の温かさです。かかわる人たちがみんな親切で、いざとなったらこの人たちに頼ることができると思うことで、留学生活に対して抱いていた不安がかなり解消されたと思います。また、彼らとともに異国の地で過ごしたことによって、多角的に物事を捉える能力が身についたように感じます。日本で醸成されてきた価値観を一度壊して、異国で生きるために再構築したことによって、新たな物事の捉え方を得ることができました。

留学中の写真(5枚程度) ※写真のキャプションも入れること



La Union で初サーフィン体験



友達とフィリピンの民族衣装



1セメスターの友達との farewell party



セブのきれいな海



マニラオーシャンパークでの集合写真